



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2018年11月1日

11月号・第202号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



ならやまは

楽しさいっぱい(\*^\_^\*)



## Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

|                    |     |               |       |
|--------------------|-----|---------------|-------|
| 壮春力歩               | 1   | 自然観察会・報告      | 9     |
| Monthly Repo. ならやま | 2   | 稲刈り・報告        | 10    |
| 私のふるさと             | 3   | 癒しの散歩道・ならやま茶論 | 11    |
| 里山の今・鳥シリーズ         | 4・5 | ならやまプロジェクト    | 12    |
| やさしい病害虫講座          | 6   | 行事案内1・2       | 13・14 |
| 月例研修会1泊旅行・報告       | 7   | 幹事会・編集後記      | 15    |
| 朝日親と子の自然環境教室・報告    | 8   |               |       |

# 壮春力歩

会長 鈴木 末一

## 連携事業認定証交付

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)から今後の高い波及効果を期待する団体として、当会が認定連携事業(第12弾)に選ばれたのは、ご承知のとおりです。10月6日、鹿児島市で認定式があり、当会の里山・里地再生と活用による景観保全と環境整備事業に対し、認定証が交付されました。UNDB-Jは、国内各地で生物多様性の保全活動をする諸団体の連携促進を目指しています。今回の認定を機に、生物多様性やUNDB-Jの「にじゅうまるプロジェクト」などについて触



れておきます。

### ◆にじゅうまるプロジェクトとは

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の大事な成果が愛知ターゲットの「地球と生命のための20の約束」です。

この目標を知ってもらおう、立場を超えて、目標を現実にするための行動に変えていこう、この目標を達成するために世界の取組みとつながろうと考えられたのが「にじゅうまるプロジェクト」です。

にじゅうまるプロジェクトは、市民団体、企業、自治体などが、自分たちのできることで愛知ターゲットへの貢献を宣言(にじゅうまる宣言)し、登録していく取組み、すなわち、2020年までに、愛知ターゲット達成のための一つのチームを作り上げる事業です。

### ◆愛知目標とは

2010年に愛知で開催された国際会議で193の

国々が合意しました、生物多様性を守るために2020年までに達成すべき20の目標の事です。

### ◆当会の活動が関連する愛知目標



#### 目標1: 普及啓発

みんなが、生物多様性は大切なんだと知ろう。その気持ちをもって、行動しよう。



#### 目標4: 生産と消費

環境に無理をさせず続けられる生産と消費を行おう。



#### 目標7: 農業、林業、養殖業

農業、養殖業、林業が行われる地域を、長く無理なく活動できるよう管理しよう。



#### 目標8: 化学汚染

化学物質、肥料、農薬は、生物多様性に有害でない範囲まで抑えよう。



#### 目標18: 伝統的知識

生き物や自然にまつわる伝統的な知識を大切にしよう。



#### 目標19: 知識、技術の向上と普及

生物多様性に役立つ知識や技術を豊かにしていこう。

### ◆生物多様性とは

にじゅうまるプロジェクトでは、「生命の多様さ・生命を育む場の多様さと多彩なつながり=生物多様性」と表現しています。

生物多様性とは、Biodiversityの訳語です。Biodiversityという言葉は、1988年に生まれ、1990年の初めには(公財)日本自然保護協会の国際セミナーを通じて日本に紹介されるなど、急速に世界各地にひろまり、1992年の生物多様性条約という国際条約まで作られるほどになりました。が、「生物多様性はわかりにくい」と、今なおわれています。

正式な定義は、すべての生物(陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかんを問わない)の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む。(生物多様性条約第2条:用語)」とされています。

**Monthly Repo. ならやま**

八木 順一

**9月21日(金) 振替活動 雨後曇り 27名**

雨も10時過ぎには上がった。打ち合わせでは不法投棄の件や駐車場近辺で見つかった赤いキノコの群生の件等が報告される。カエンダケと懸念されるが結局サンコダケと確認される。また、昼食時にはならやまで育てられたこんにゃくの振る舞いと販売が行われる。里山Gは伐採木の処理、エコGはハウレンソウやシュンギク等の播種、そして景観Gは第二駐車場周辺の草刈りに取り組む。またビオ班はザリガニの駆除と池周辺の草刈り、パトGは観察路見回りとカエンダケ調査を行う。

**9月27日(木) 活動 曇り 63名+19名**

四日市市から18名の視察、加えてシニア生の研修もあり、忙しい一日になる。また北側のサイトへの移動作業も行う。打ち合わせでは不法投棄



の報告や来週の協働作業の連絡等が主なものになる。里山Gは台風の倒木処理や水路改修、エコGは野菜

の収穫の他、間引きや播種、施肥、そして景観GはBCや梅林の草刈りを行う。またビオ班は水生生物調査と池周辺の草刈り、花班は花壇の花の撤収、パトGはA地区での協働作業の準備と倒木整理、そして2コースのパトロールを行う。

**10月5日(金) 振替活動 曇り 42名**

北側のサイトで秋の活動が本格的にスタート。参加者は少なく、協働作業は延期。アダプトプログラムは予定通り実施される。打ち合わせでは研修の報告やイベントへの参加協力が主なものになる。里山Gは薪割りや扇風機のと片付け、エコGは野菜の間引きや種まき、そして景観Gは彩の

森の奥の、のり面の草刈りを行う。またビオ班は池の整備や草の剪定、花班は花壇の土作りと種まき、そしてパトGは観察路の草刈りと2コースのパトロールを行う。その他、果樹班は梅の剪定に取り組む。



**10月12日(金) 振替活動 曇り 54名**

振替活動。今週末のイベントの準備でサイトはてんでこ舞い。協働活動では遊びの森への観察路の整備や遊具の設定に全員で取り組むが、この作業の段取りや、

イベントの打ち合わせ等の連絡が朝礼で行われる。里山Gはイベント準備の活



動、エコGは野菜の収穫や秋野菜の間引き、そして景観Gは彩の森の奥の、のり面の草刈りに取り組む。またビオ班は池の整備、花班は葉ボタンの移植、パトGは4コースのパトロールを行う。その他、果樹班は梅の剪定を行う。

**10月14日(日) イベント 晴れ 30名+58名**

昨年へ続き2回目の「朝日親と子の自然環境教

室」。今回は稲刈りの体験学習を中心に里山遊びや立ち木伐採作業、そし



て自然観察に取り組む。県外からの参加者も多く10時30分のスタートとなったが、一日、目いっぱい活動となる。ほとんどの参加者はもう一回来たい、という感想を述べてくれた。



## 私のふるさと

### 私のふるさと「難波の思い出」

菊川 年明

子供の頃は「ふるさと」といえば山や川があり、田んぼがあり、小川にはメダカやドジョウがいたり、というイメージでした。これはいろいろの歌謡、童謡、物語などから自然に形成されたものだと思います。ふるさとはこのようなものだと思います。ふるさとはこのようなものだと思っていましたので、大阪の市内で生まれ、育った自分にはふるさとはないと思っていました。

しかし、成人して、国家公務員の道を選びましたから転勤は常態でした。最初の転勤先は昭和30年代後半の東京でしたので、大阪を離れてみると大阪もふるさとだと思えるようになりました。

私の生まれたところは、大阪でも旧市内ではなく、明治以降に開けたところでした。今にして思えば不思議な街でした。近所は長屋の連なるところでしたが、4戸が1棟の長屋の1軒に「お寺」と呼んでいる家がありました。

間口は2間半くらい、正面の出入り口は1間半くらいの引き戸になっている2階建ての家で、1階は「本堂」と名付けて、簡素ながらお寺ふうに正面に仏様が祭られ、両側には風神、雷神の大きな絵がありました。一家は2階に住んでいました。2階のひさしに小振りの半鐘くらいの鐘が吊り下げられていましたが、これはお寺の象徴の釣鐘だったのだらうと思います。主人は僧侶で、毎日、いわゆる「お参り」に出かけていました。私の家も毎月1回来ていただいていたいました。

主人はときどき、近所の子供たちを本堂に集めて、教育紙芝居の会を開いていました。太平洋戦争中の、楽しみの少ない時期でしたから、8畳敷きくらいの本堂の畳の間は子供たちで満員でした。

その隣には石職人が住んでいました。家の前に墓石用と思われる石材を数個積んでありました。主人は雨天でなければいつも家の前の空地で、石材にのみを振るっていました。近所では「石屋さん」と呼んでいましたが名字は「石井」でした。

仕事中の家の前は、御影石のかけらだらけでしたから、近所の子供らはその石を拾って、石蹴りという遊びをしていました。

この空地には紙芝居屋が毎日、ほぼ定時にやって来て、拍子木を打ってその辺を回り、子供たちを集めて「黄金バット」など、3本立ての紙芝居をやっていました。

棟の違う長屋に「看板屋」という家がありました。映画の看板屋さんで、映画館の正面を飾るものです。ベレー帽をかぶり、絵描きさんふうのスタイルをした主人が、左手に映画のステール写真を持ち、それにときどき目を向けながら、右手に絵筆を持って、当時人気の長谷川一夫や上原謙などの顔や姿を大きな板に描いていました。

私がまだ幼稚園くらいの頃、近くの道路下に地下鉄を作る工事が行われていました。大阪市営地下鉄の難波～天王寺間の延伸工事でした。この頃は露天掘りでした。昔は海だったというところだったので、地面の下は貝殻混じりの砂だけで、掘り出した砂は付近の空地に積み上げられ、2階建ての家の大屋根くらいの高さの山になっていました。付近の人は砂山と呼び、子供たちは砂を掘って珍しい貝殻を探したり、大きな竹籠をソリにして滑り降りたりと、いろいろに遊んでいました。

また、この一角は、夏にはギンヤンマの通り道になっていて、夕方、ねぐらへ帰るヤンマが西の方から来て東の方へ、少し高めのところを飛んで行きました。日没までの1時間ほどですが、おびただしい数でした。このヤンマを「ぶり」という手作りの道具で捕えることに夢中になりました。

「ぶり」というのは、長さ60cmくらいの糸の両端に、小粒の石(直径約5mm)を、ろう紙(キヤラメル)の包み紙でもよいなどです。この道具をヤンマめがけて放り上げると、ヤンマは餌と間違えて食いつきにきて、糸に絡まって落ちてくる、という仕掛けでした。当時、この辺りの西の方にはヤンマが終日過ごせるような環境のところがあったようです。

ヤンマが昼間を過ごす辺りの少し西には汽船が入れる大きな川の河口があり、ときどき航行する汽船の「ボー」という汽笛が聞こえていました。

## 里山グループ

池田 信明

### ◆今夏の猛暑と里山、公園への影響を思う。

今年の夏は例年に比べ、異常な猛暑で人間だけでなく里山や公園の草木にとっても今年はずいぶん夏になったのではないのでしょうか。

ならやまの里山と奈良公園では草木の生育環境がだいぶ違いますので比較は難しいのですが、私は飛火野の植生が好きなので季節ごとにぶらりと観察に行くことがあります。奈良公園で目立つ樹種は外来種の「ナンキンハゼ・ナギ」や在来種の「イチイガシ」が見られます。イチイガシは春日大社が創建された8世紀頃には御蓋山から飛火野辺りまでイチイガシの照葉樹林が広がっていたといわれております。

春日大社境内には幹周3m以上の巨樹といわれる23本のイチイガシが、昭和56年2月に奈良市の天然記念物に指定されており、毎年たくさんのドングリをつけます。イチイガシのドングリは鹿も好きですし、渋味も少なく人も食べることができますが、そのドングリの成長が今年はずいぶん遅く7~8月になっても大きくなり、猛暑と雨不足によるものと推測しています。飛火野辺りは特に他の樹木も少なく猛暑による土地の乾燥で、水不足になっていたのかも知れません。9月に入り台風や雨量も多くなりドングリの成長は元に戻りつつあるように見えますが、台風で落下したドングリを見ると粒が小さく、今の季節を考えると今夏の猛暑が大きく影響しているように見えます。今回は公園で良く目立ち観察しやすいイチイガシを取り上げましたが、他の種類のドングリでも影響はあると思います。

今、世界で心配されている地球温暖化が原因と言われている地球レベルのさまざまな気象変動が、これからますます激しくなる事が予想されており、自然環境の小さな変化の積み重ねにより取り返しのつかないような事態が、目の前まで迫っているように思えてなりません。



## エコファームグループ

三瀬 英信

### ◆秋のならやまの野菜畑

「今年は災害の多い年でしたね！」と振り返るのも間もなくとなった。4月の島根県西部地震。6月の大阪北部震度6弱の地震。7月には西日本を襲った豪雨災害。7月半ばからの歴史的な猛暑は30年にして1度のこと。「命にかかわる危険な暑さ」と気象予報士の耳慣れない解説が日常的に聞こえるほどだった。「災害は忘れたところにやって来る」といわれるが、ある人いわく、「今年の災害は忘れる前にやって来る」と。

ならやまは、台風による倒木の片付けが続いているが、その他は大きな被害を免れた。災害の影響は経済指標にも表れた。自然が相手の農作物は特に大きな被害をもたらした野菜が高騰した。

たとえ猛暑であっても種をまかねば実りはしない。毎日のように水をやり、まばらな発芽には追いかけて種をまき、虫よけ網をかぶせ、除草にと手をかけたかいて、今のならやまの畑は野菜で緑

に染まっている。その種類はざっと20種以上。(唐辛子、ナバナ、大根《紅心、

聖護院、YRくらま、わさび、桜島、スワン》、ネギ、玉ネギ、白菜、キクナ、ほうれん草、日野菜、ワケギ、ニンニク、玉ネギ、水菜、落花生、春菊、レタス、ニラ、さつま芋、里芋、秋ナスなど)

この陰には、収穫の後片付け、畑づくり、苗づくり、堆肥づくりと地道な仕事あつてのこと。萱野リーダーの“手を抜いたらあかんでえ”の言葉が聞こえてくる。萱野さんが一日も早く復帰できるよう祈っている。

間もなく“ほのぼの市場”にエコメンバーの汗と自然の恵みが育んだ野菜類が並び、“今から販売をはじめま〜す”と吉村さん(販売部長)の声が響くだろう。乞ご期待！！



**景観グループ**

永井 幸次

◆バカマツタケ栽培

ならやまの松林で松茸の人工栽培をやっているとき、新聞に奈良県森林技術センターがバカマツタケの人工栽培に成功したと載っていた。松茸のことも興味があるとき、近大農学部で奈良県森林技術センターの河合昌孝さんの菌根性キノコの栽培の講演があり、福田さんと聴きに行ってきた。

キノコの繁殖の仕方にはシイタケ、なめ茸のように腐生性とマツタケのように菌根性がありバカマツタケも菌根性です。培養した菌糸体を直接林地に埋める方法でなく、取り木苗とともに培養した菌糸体などを林地に埋めた方法で行い、2年続けて成功したとのことです。



バカマツタケ学名 *Tricholoma bakamatsutake*

バカマツタケはハラタケ目キシメジ科のキノコ、マツタケに酷似するが、松林ではなく雑木林に生きることや、やや発生時期も早いので馬鹿なマツタケということの名がついた。

発生時期：8～11月。発生場所；クヌギ、コナラ、赤松などの雑木林の地上に点々と生える。マツタケとよく似ているが、やや小形。傘の直径5～10cm、表面は繊維状でささくれている明褐色、周辺部は薄茶色か淡黄色、柄も同色同形で長さ4～10cm、肉は白色で締まっている。

マツタケとは生える林が違うので判別できるが、いっしょの籠に盛られたら初心者には見分けがつかないだろう。ましてや料理として出されたら経験者でもむずかしい。それほどに形、色、味、香りともにそっくりで、むしろ発生数の少ないことからキノコ通の間では珍重されている。

ならやまでバカマツタケが採取できるように早く取り組みたいものです。

**里山の今**



**鳥シリーズ**

小田 久美子

◆ <sup>からす</sup>鳥・<sup>ふくろう</sup>梟・<sup>とび</sup>鳶

臼田甚五郎著『民俗文学へいざなひ 鳥と蟹とをめぐって』を読みました。著者は、昭和40年代に日本全国(南は沖縄迄)を巡り、民衆の暮らしぶりや、昔話・俗信・伝承を掘り起こしています。鳥と梟の話はあちこちに伝承がありますが、(地名は多いので省きます。)その分布は近畿地方以東に片よって、中国・四国・九州にはほとんどないとして、西津軽郡鰺ヶ沢町鬼袋の例をあげています。{昔、梟は紺屋(染物屋)でした。おしやれ者鳥は、自分の白い羽が気に入らず、梟の所へ染めて貰いに行きました。「ふくろア、汝のようだ色コネそめでくれジャ」と頼んだのですが、どうしたことか、梟は、鳥を真っ黒に染めてしまいました。それで、鳥は今でも怨みに思い、梟を見つけると突きまわすのです。}…この話は、私も鳥シリーズで2012年「カラスとフクロウ」の話を書きましたが、他に、東北や長野の町村にもあるようです。他に、紺屋を鳶、客を鳥とする話は、東北各地や津和野などにもあり、はるか西に飛んで壱岐島武生水村では、鳥が紺屋、鳶が客で、真っ白だった鳶が鳥に染めて貰ったが、気に入らず染代を払わないので、鳥は怒って仲が悪くなったという話もありました。(地名は旧地名です)

古代文学にも鳥を詠んだ歌がありました。  
『万葉集』

3521-鳥とふ 大をそ鳥のまさでも来まさぬ君をころくとそ鳴く

訳：鳥という とんま鳥めが 実際には来ない君なのにくろく(自分から来る)と鳴く—(男を待つ歌)

3522- 昨夜こそば 兎ろとさ寝しか 雲の上ゆ 鳴き行く鶴の ま遠く思ほゆ

訳：ゆうべこそ あの娘と寝たのに 雲の上を鳴き行く鶴のように 遙かに思える—(女を思う歌)

『日本霊異記』- 鳥といふ 大をそ鳥の言をのみ 共にと言ひて 先立ち去ぬる

訳：鳥という とんま鳥めの言うことを信じたが 共にと言ったのに先に飛んで行った

## やさしい病害虫講座 33 サツマイモの病害虫-2

木村 裕

前回の主人公のイモキバガさんは体が小さくて少食であったため、葉は穴だらけになって見苦しくなるとはいえ、実被害はそれほどではなかった。今回は横綱級のイモムシさんを紹介します。

### 【エビガラスズメ】

大きく成長すると、私たちの指くらいにはなる大きなイモムシさんです。常時現れる害虫ではありません。ときどき突然に出現して葉をバリバリ食べ、茎だけにします。

体は大きく頑健で、側面に目玉模様をいっぱいつけているが、本当の目玉は小さな頭にちょこんとついていて探さないと見つかりません。それとお尻に尖った突起を備えているのが特徴です。

衣装もちで、黄色、緑色、青白色、褐色、黒褐色などさまざまな色の衣装で着飾り、その側面には斜めのしまの模様もつけています。



見つけ次第捕まえましょう。手で触るのには抵抗があるかもしれませんが、かぶれなどの毒成分はないので心配はいりません。大きなイモムシさんは力持ちで体を振り動かして逃げようとしてますが恐れずに。



大きくなった幼虫は土の中で、褐色の蛹になる。

### 【ハリガネムシ】

名前の通り、イモに穴を穿つのは針金のように細くて堅い頑丈な虫で、コメツキムシさんのお子さまです。成虫のコメツキムシさんは黒っぽい細長い甲虫で、触ると手足を縮めて死んだ振りをして、裏返しに放置しておく、ペコンと跳ね上がって元に戻ってこそこそと逃げ去ります。



子供さんは、イモの表面に穴をうがち、頭を突っ込んでかじります。穴は直径1ミリ前後で針金を突き刺したようで、イモの品質は低下しますが実害はたいしたことはありません。しかし、虫がかじった傷口が黒斑病という病気の侵入の足掛かりになるのが問題です。

### 【黒斑病】

収穫後の貯蔵しているイモを腐らせる厄介な病気です。イモの収穫時に生じた傷から菌が侵入して内部で広がりイモ全体を腐らせます。

イモの掘り取り時にはイモの表面を傷つけないことです。コガネムシやハリガネムシがかじった部位も侵入口となりますので、傷ついたイモは早く食べることです。収穫時にイモの表面が黒くなっておればすでに感染しているのは確実です。



## 10月 月例研修会報告 秋麗の乗鞍方面一泊研修

小島 武雄

10月1日「秋麗の乗鞍方面一泊研修」旅行は、台風24号直撃予想で出発できるかヤキモキしておりました。ところが当日は素晴らしい晴天になりキラキラの朝日を浴びて定刻の7時30分、いつもの生駒交通サロンバスは25名を乗せて無事出発しました。会長あいさつの後、御在所PAまで到着時間当て予想、ビンゴの準備、頭の体操クイズなど楽しく過ごして、11時30分ほぼ定刻に飛騨古川の街に到着（徳地さん到着時間ぴったり賞）。

まずは、ヘルシーな飛騨のめぐみランチをいただき、大きな鯉の泳ぐ瀬戸川と、白壁土蔵の街を散策、和ろうそくのお店を見て、渡辺酒造でたっぷりお酒の試飲。

その後、予定では乗鞍山頂畳平でしたが、昨日の台風の大雨で乗鞍スカイラインが終日通行止めのため、行き先を上高地に変更、安房トンネルを抜けて大正解。河童橋から見上げる青空に穂高がくっきり。滞在時間は2時間あまりでしたが、福田さんの案内で明神池まで急ぎ足でいく組と、岳沢湿原その他散策組に分かれ、肌寒い中を歩いて秋の上高地を思いっきり楽しみました。



(飛騨古川)



(上高地)

バスは平湯温泉を目指し、途中野生の猿の群れに出くわしたりして、17時30分「岡田旅館」に到着。かけ流しの天然温泉と庭園露天風呂で疲れを癒やし、大広間の宴会場で奥飛騨ならではの山菜や川魚をいただきました。二次会は、これからのならやまの行く道や、まだまだ現役の方々の

お話などで遅くまで盛り上がりました。

2日目は白川郷へ向かいます。まず展望台で素晴らしい景色を背景に記念撮影。バスを止めて、庄川の急流を下に見て微妙に揺れる吊り橋を渡り、合掌造り集落へ。天気は最高で、ちょうど茅葺き屋根の葺き替えを見ることができました。お昼は合掌造りのお店での蕎麦定食。



(岡田旅館宴会)

(ふくべの大滝)

バスは、12時20分白山ホワイトロードに向けて出発。白山展望台へ着く頃から、少し雲が出てきて白山展望はかなわなかったが、ブナ林の紅葉と山並みは素晴らしく歓声が上がった。次の、ふくべの大滝は前日の大雨で豪快に流れ落ちており、圧倒されて声も出ません。マイナスイオンをたっぷり浴び、中宮保護センター展示館に立ち寄って帰路へ。

バスの長い時間を利用して、まずは古川さんをお願いしていた、参加者の



(合掌造り展望台にて)

幼い頃の写真をヒントに本人当てゲーム「私は誰でショウ」。なかなか当たらず、本人のその頃のエピソードなどを聞き大いに楽しみました。いつものビンゴゲームで皆さまの手づくり小品が手元に、時間を忘れて遊んでいるうちに、奈良市内へ18時45分到着。盛りだくさんな旅行でした。

一泊研修旅行に参加の皆さまありがとうございました。

## 朝日親と子の自然環境教室 報告

戸田 博子

去年に続き「朝日親と子の自然環境教室」が10月14日に行われた。

2週続きの台風襲来のため、稲刈りがうまく実施できるのか？里山の倒木整備は間に合うか？心配されることはたくさんあったが、当日は雨の心配もなく爽やかな日となった。

教室側参加者の親子46名、朝日新聞社関係者2名、シニア自然大スタッフ10名、本会員30名の総勢88名が秋のならやまサイトに集まった。

開会式では、関係者のあいさつの後、本日のスケジュールや野外活動の安全のための遵守事項について細かな注意・説明がなされ、記念撮影後、時間通り活動開始となった。

午前11時から稲刈り体験。会長から稲の刈り方や穂束の縛りかたの説明を受け、参加者は東西2方向に分かれて、稲刈り開始した。始めは鎌がうまく使えず、ノコギリのように束を切っていたが、慣れるにつれて「スパッ！」と切れるようになり、スピードアップしてきた。

作業が慣れてきた頃、「マムシ」出現のハプニング。それも参加者の男子が見つけたという、想定外のことが起こった。鈴木会長の捕獲で事なきを得た。マムシを見たことがない参加者が多く、これも里山体験の1つになったのではないかと思う。その後、ハザ掛けも順調に進み、予定通り12時に終了。



お昼は、ならやま名物の豚汁や野菜の和え物を持参のお弁当と一緒にいただき、ほりたて焼きサツマイモは子どもから「もっと食べたい」と声があがった。

午後1時から里山体験。

2つのグループに分かれて立木伐採と里山遊びをする。

活動場所へ行くため急傾斜の道を登って行くのは、子どもたちに冒険心と期待感を抱かせたと思うが、どうだったか？

ノコギリや枝切りハサミの使いかたを聞いたあと、一人1本の割り当てで伐採作業に移ったが、子ども1人に親、本会スタッフなど10名近くが見守り、口を挟みと大変なにぎやかさになった。

里山遊びも、木登り、平均台、ロープブランコ、変形木片だるま積み(?)など30分は短く感じた。

その後、少し学習。阿部顧問の「葉っぱ」のお話は、全員が熱心に聞いた。

普段はあまり注意を払わない、葉の形の違い、色、つや、におい、おおきさなど少しは覚えて帰ってくれたと思う。

時間がここでも不足気味だったが、帰りのこともあるので、里山体験も無事終了。



お金を払ってでも、このような体験を子どもにさせて、将来の生き方に役立てて欲しい人たちがいる。

報酬がなくても里山を守り、今ある自然を若い人たちに伝えたいならやまの会員がいる。

この二つの気持ちが出会って、すばらしい時間を作り出している行事だったと思う。

自然教室便り

10月・生駒山滝寺周辺 自然観察会報告

辻本 信一

9月10日に予定されていた「秋の自然観察会」は残念ながら雨で流れましたので、今回はその時予定していた生駒山麓、滝寺周辺での自然観察会を、再度チャレンジし、実施いたしました。

講師には「大阪自然史博物館友の会」副会長の田代貢先生をお招きし、10月15日(月)の実施となりました。

当日は、会員の皆さまお疲れの「ならやま」でのイベント開催翌日ということもあり、参加者はあまり多く見込めないのではと危惧しておりましたが、フタを開ければなんと16名の方にご参加いただき盛況な滑り出しとなりました。



【近鉄生駒駅改札出口集合】

久しぶりの外部講師による自然観察会ということも背景にあつてのことだと思いますが、皆さま、熱心にノートを取り、終始真剣な眼差しで話に集中してくださいました。

その熱意は、先生にも伝わり、「目につくものは何でも手当たり次第」の勢いで説明が次々と繰り出されます。田代先生の案内の特徴は、植物の構造や仕組みを自前の手書き資料を使って、誰にでも分かりやすく、丁寧に教えていただけること。

複葉・単葉の説明では、軸に対する葉の付き方の違いを、模型を使って、しっかり説明してくださいました。

観察の対象は植物のみならず、ハチ、アブ、更には



【模型を使つての説明】

アリジゴクの昆虫にまでおよびます。

午前10時にはじまった観察会もお昼を挟み午後3時まで約4時間半を要し、観察した植物の名前の数は全部で60種近くにも達しました。

その間には生駒ケーブルの軌道が間近に見える観察ポイントにも案内され、生駒を熟知されている田代先生の造詣の深さに一同感嘆しきりでした。



【床下でアリ地獄探し】

【生駒ケーブルの軌道】

紙面の関係で到底全部は書けませんが、観察会で学んだことの一部をここに列記いたします。

- ・アベリアは外来種なので花粉を運ぶ専門の虫が日本にいない。体が花筒に入らないクマバチは花の蜜のところを外から咬み切り盗蜜(とうみつ)する。
- ・ジョロウグモはきれい好き? 巣にゴミ用の部屋があり、他には寝室、食堂も・・・
- ・ヤブマメは地上の花とは別に地中に閉鎖花を咲かせ自家受粉により地中に種を作る。
- ・シュウカイドウの花



【ヤブマメの説明】

- には蜜がなく、花粉を持たない雌花にも虫が寄ってくるよう雄花に外観を似せている。
- ・ソヨゴの葉の構造は等圧葉からなり、ライターであぶると破裂しパチと音がする。⇔異圧葉
- ・セイタカアワダチソウの葉のつき方。5回まわって13番目の位置に同じ位相の葉っぱが来る。(フィボナッチ数列の話)
- ・ウバメガシの木は硬いので水に沈むことをビンに入れた水を用意し実験。一同感動。

他にもたくさんの植物の不思議や魅力をご披露いただきました。

次回来年3月の自然観察会も田代先生にお願いする予定ですので、次回は、ぜひ、皆さんご自身の目と耳で、目からウロコの先生のお話をご堪能ください。

# 佐保台小学校 稲刈り体験学習・報告

青木 芳一

佐保台小学校5年生の水稲栽培体験学習は、今年で10年目を迎え10月18日に行われました。

澄みきった青空のもと、10時過ぎに担任の永井先生に引率された23名の児童が、ならやまのベースキャンプに到着しました。



鈴木会長より、稲の起源、ご飯の栄養についての説明がありました。先生からは、これからの作業の説明をしっかりと聞いて、けがをしないようにと注意がありました。



児童がコンピューターで作成したかかしの絵がある水田に移動しました。ノコギリ鎌で稲の株の切り方、6株ごとにひもで強く束ねることの説明がありました。北側の水田のあぜに23名の児童が、西から東に向け稲刈りをするため並びました。一斉に始



めると危険なため、偶数番、奇数番と順番に水田に入り、3株ずつ刈り取りを始めました。多くの児童は初めて体験するため、株を何回も切ること



かんだ児童もいました。今年は水分が多くぬかるんでおり、靴がもぐり、慣れていない児童たちの稲刈りは、大変な作業になりました。時間の制約もあり、多くの児童は東のあぜまで刈り取りができませんでした。会員が刈り取り作業に加わりまし

た。刈り取りと束ねる作業が完了後、稲掛け作業の説明がありました。6株で1束になっているのを半分に分け



さおに掛けて天日乾燥します。会員が準備したさおに、児童は会員の手助けを受けながら稲掛け作業を行いました。

約1時間の稲刈り体験の後、どろどろになった靴を洗いベースキャンプに戻りました。

6月7日に田植えをした水稲は、台風が来ましたが成長し稲刈りをすることができました。今日の体験で、農家がお米を育てるための大変な作業、そしてお米の大切さを学んでくださいと、鈴木会長から児童に対してお話がありました。

今年は、ならやま里山林において、マムシの出没が確認されています。児童が稲刈りをする水田を、会員が事前にマムシの追い出し作業をしました。



癒しの  
散歩道

「秋模様」

いつしか寄せ来る秋の色模様

我が眼を奪われし日暮れの里よ  
日和涼し気な稲穂が優しく揺れて

小寒い風に背なを丸くする里人よ  
今年も訪れる紅葉の錦待ちわびる



谷川 萬太郎



季節を惜しむ小鳥の悲しき口笛聞こゆ  
煙る田畑の向こうに浮かぶ晩鐘の輝き  
茜色の夕日に包まれた農夫のシルエット

咲き誇る秋桜が今日の日はさよならと  
手を振って微笑み返すまた明日会おうと

なつやま茶論 「半分の秋」

西柿：お早う、東さ・・・、えっ東さん  
どこへ行ったの。

東柿：ここですー。下の方です。

西柿：アレー、えらいこっちゃがな。幹が  
ボッキリ折れて、テントにもたれて  
しもて。

東柿：もう何もかもおしまいですわ。もう  
すぐ西さんと秋の風情の演出を楽し  
みにしてたのに。

西柿：えゝ本当にそうですよ、寂しいこと  
になりましたわ。私もすっごく揺れ  
ましたけど西側の竹林さんのお陰で  
助かりました。



竹本 雅昭



東柿：里山の人々には毎年食して頂き、お  
役に立つことがどんなに嬉しかった  
ことか。筆柿も青いまま落ちてしま  
ってかわいそう。熟柿た時などは、  
鳥がペッペッと忙しげに、小鳥さん  
達にはかわいい嘴で上品に食べて頂  
きました。

西柿：そうね色々ありましたね。これから  
私一人で東さんの分まで働けるか心  
配ですわ。

人々：鈴生りの朱に輝く筆柿に

心も昇る深き空

～終～

<台風21号>

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 11月 | 1 (木) 8 (木) 15 (木) 22 (木) 29 (木) |
| 12月 | 6 (木) 13 (木) 20 (木)              |

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

## ◆アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分

② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統

8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統

8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



◆連絡先：八木 順一

## 里 山

11/1 里山林内倒木処理(台風被害)

下草刈り／自然林内観察路付近倒木処理

8 協働作業・蕎麦の収穫・アダプトプログラム

里山林内倒木処理（台風被害）／下草刈り

15 22 29

楢木用コナラ伐採

下草刈り／薪割り

## エコファーム

11/1 玉葱、豌豆畑整備

各種秋野菜の追肥と除草

里芋の収穫、野菜類の間引き

そば：稲架掛け設置

果樹：礼肥（ユズ、他若干）

8 協働作業・蕎麦の収穫・アダプトプログラム

唐辛子、ピーマン畑耕耘整備／早川畑整備

そば：そば収穫作業（協働活動）

果樹：ユズ他（秋枝の剪定）

15 豌豆、空豆の移植／里芋の収穫

そば：脱穀、整理、乾燥、出荷

22 サツマイモ畑整備／ボカシ肥料作り

29 冬野菜収穫

育苗ハウス整備／ そば：新そば祭り

果樹：ブルーベリー土作り準備

## 景 観

11/1 整備：実りの森草刈り整備

ビオ池：池の整備

花：山野草園草取り整備

東花壇撒収、菜花種蒔き

8 協働作業・蕎麦の収穫・アダプトプログラム

整備：BC 周辺の草刈り整備／ビオ池：西池生物調査／花：春花施肥、茗荷刈り取り

15 整備：BC 周辺の草刈り整備／ビオ池：池の整備／花：花菖蒲園、草取り整備

22 整備：彩りの森草刈り整備／ビオ池：池の整備／花：山野草園に木の苗移植／柵作り

29 整備：彩りの森草刈り整備

ビオ池：西池生物調査

花：ドイツアヤメ園草取り

## パトロール

11/1 観察路の丸太階段補修

落枝木の片付け／水路改修

3 コースパトロール、ミーティング

8 協働作業・蕎麦の収穫・アダプトプログラム

15 22 29

観察路の丸太階段補修

落枝木の片付け／水路改修

パトロール：コース 4→ 1→ 2→ 3

# 行事案内 Part 1



## 11月「月例研修会」のご案内

### 一龍王山の山城跡へ登る一 羽尻 嵩

行き先は、龍王山の山頂。戦国武将の十市遠忠が築城した山城跡があり、その展望台からの眺めを楽しみにいきます。

龍王山は、北の高円山から南の三輪山・初瀬山へと連なる青垣連山の中央部にあり、その連山の最高峰（標高は586m）で、頂上の南山城跡の展望台からの眺めは素晴らしいの一言です。

眼下には広々とした田園が広がり、大和三山や古墳群も点在し、その向こうには、それらを優しく包み込むように金剛・葛城・二上・生駒の山並みが連なり、古の時に思いを馳せさせてくれます。

“大和は国のまほろば たたなづく青垣 山ごもれる 大和し美し”

何度も休みを取りながら、登り・下りとも2時間少々かけて行きます。トイレは、出発前と山の上にあります。時間の関係で長岳寺には入りません。午後3時頃には柳本駅に到着し、そこで解散。



#### ◆集合日時・場所：11月20日（火）9時15分

JR 柳本駅 改札口。集合時間厳守。

（近鉄電車からは、天理駅か奈良駅で JR 桜井線に乗り換え、柳本駅で下車）

◆弁当・飲み物・雨具。山登りに適した靴・服装。

◆参加者：当日柳本駅で確認

◆担当者：羽尻嵩、松尾弘

◆前日19時前のNHKの天気予報で、奈良県北部の午前の降水確率が**50%以上**の場合は中止。

## 11月「自然教室」のご案内

### 一秋の奈良公園・紅葉狩り一 辻本 信一

あの夏の記録的な猛暑はどこへやら、朝晩の冷え込みに秋の気配を感じる今日この頃ですが、自然教室チームでは毎年恒例となっている奈良公園での秋の紅葉見物（紅葉狩り）を下記要領にて実施いたします。

1. 日 時：11月26日（月）  
午前10時～午後3時（予定）
2. 集 合：近鉄奈良駅 行基菩薩像前
3. 持ち物：弁当、お飲み物、（あれば）ルーペ
4. 担 当：自然教室チーム  
辻本 / 櫻木 / 山本(美)

「ならやま」での活動を通じ、日ごろから奈良の自然に十分親しまれている皆さまではありますが、最近奈良公園に出かけられたことありますか？

「いつでも出かけられる」の感覚が、つつい足が遠のく原因となっていませんか？

そういった方に今年は、ぜひ、奈良公園での自然観察会への参加をおすすめいたします。

ご存知の通り世界遺産の興福寺では今年10月、18年の歳月をかけ300年ぶりに同寺の中核的な伽藍（がらん）「中金堂」が再建されました。

お堂には本尊の釈迦如来坐像や国宝の四天王立像なども納められ、10月20日より一般公開がはじまっています。

ぜひ、この機会にみんなで紅葉の名所、奈良公園を訪れましょう。

たくさんの皆さまのご参加、心よりお待ちしております。





## 行事案内 Part2

### 第9回まほろば新そば祭り ご案内

今年の夏は、大型の台風が立て続けに日本列島を縦断し、「そば畑」への影響が心配されましたが、幸い被害は少なく、順調に生育しています。畑一面に咲く白いそばの花は、本当に見事で、昨年以上の収穫が期待されます。今後、11月8日に刈り取り、その後、乾燥・脱穀・選別・製粉の過程を経て、薫り高い「新そば粉」が誕生します

今年の「新そば祭り」は、11月29日(木)に実施いたします。当日は、そばクラブのメンバー10人が約170食分のそばを打ちます。文字通り「採れたて」の新そばを、「挽きたて、打ちたて、湯がきたて」で賞味していただきます。そば好きの方には、これ以上ない二八の新そばです。「かき揚げ付きぶっかけそば」「ニシンそば」に加え「そば雑炊」「ネギ焼き」も準備いたします。また午前10時過ぎから、「あずまや」でそばクラブ師範と会員によるそば打ちの実技もご披露いたします。

晩秋のならやまで、新そばをお楽しみください。

#### 《実施要領》

日 時：11月29日(木) (雨天12月6日)

開 会：12:00

参加料：300円

お持帰り：1パック500円(数量限定)

その他：お椀、箸をご持参ください。



(そば文化クラブ 寺田記)

### 歴史文化クラブ 12月度研修会

### 「地元史探訪と座学」のご案内

歴文12月の研修会は、例年のように地元史の探訪と座学を実施いたします。

午前中は、「奈良街道」(〈京街道〉)周辺の史跡を訪ね、301年ぶりに再建・落慶された興福寺中金堂も拝観します。(拝観料500円)

午後の座学は、中部公民館の視聴覚教室で行います。講師には、NPO平城宮跡サポートネットワーク理事長の鈴木浩氏をお願いいたしました。

正倉院の御物から飛鳥・奈良時代の歴史の底流を読み解く、という興味深い内容です。午後の部の講演だけの参加も歓迎いたします。

#### 《実施要領》

日 時：12月4日(火) 9:00

近鉄奈良駅行基像前集合 雨天決行

- ・午前の部：奈良街道沿いに以下を巡ります。  
轟橋⇒焼け門⇒北山十八間戸⇒般若寺⇒少年刑務所跡⇒聖武天皇・光明皇后陵⇒奈良女子大⇒興福寺中金堂 (解散)
- ・午後の部：13:30～座学

中部公民館3F 視聴覚教室 集合

テーマ：「正倉院に伝わる秘密の厨子」

—正倉院に伝わる天武天皇遺愛の厨子

から、歴代天皇の相伝由来が見える

講師： —上記—

担当世話人：永井孝次 田代一行 鈴木末一

参加申込み：青木幸子まで(当日参加OK)

問い合わせ：事務局 中井弘

### 12月ならやま活動&行事予告

#### \* ならやま活動

12月6日 協働作業の日

12月20日 迎春準備

#### \* 歴史文化クラブ

12月4日(火) 上記に案内記載

#### ★ 忘年会 12月10日(月)

リガーレ春日野 12:00～

